

## 遺物展示 ①

# 阿賀野市 ほりこしやかた 堀越館跡 [新潟県阿賀野市堀越字土本524ほか]

## ～茶道具などが多数出土した室町時代の館跡～

### 1 遺跡の概要

堀越館跡は、阿賀野川によって形成された沖積平野の自然堤防上に位置し、標高は約11mです。発掘調査は、一般国道49号堀越歩道建設に伴い平成10年に行い、調査面積は361㎡です。

遺跡は、堀に囲まれた中世の館跡で、東西推定110m、南北80mの規模を持ち、館内から多くの遺構や遺物が見つかりました。

### 2 遺構と遺物

主な遺構は、館を巡る幅10mの堀跡、区画溝と考えられる幅約1～2mの溝3条、遺物を廃棄した土坑2基、土坑墓1基などです。

廃棄土坑S×34からは、14世紀後半～15世紀前半にかけての陶磁器などが多数出土しました。中でも貿易陶磁器である白磁（はくじ）の碗・皿、青磁（せいじ）の碗・皿・盤・香炉、褐釉壺、天目茶碗（てんもくちやわん）、茶入れがまとめて出土しました。また、国産陶磁器には瀬戸美濃焼（せとみのうやき）の天目茶碗・皿・茶壺・香炉・水注、瓦器（がき）の風炉（ふろ）・火鉢、珠洲焼（すずやき）の甕・壺・鉢、越前焼（えちぜんやき）・信楽焼（しがらきやき）の壺、土師器皿があります。さらに、硯、茶臼、鉄製品、銅製品などが出土しました。これらは多量の炭化した米粒とともに熱を受けた状態で出土したことから、火事場整理のためにまとめて捨てられたものと考えられます。また、日用品が少なく、茶の湯、花生け、香などに関係する非日用品が多く含まれます。これらはおおよそ2：1の割合です。さらに、貿易陶磁器の割合も高く、国産品との割合も2：1ほどになります。こうしたことから、出土品は館の領主が使用した家財類であり、権威を示す威信財であったと考えられます。

室町時代に書かれた和田房資の記録の応永三十（1423）年条に、越後争乱により「堀越要害」が1日で落ちたという記録があります。廃棄土坑S×34の遺物は15世紀前半までのものに限定され記録の年代と一致します。このことから、「堀越要害」は堀越館跡のことで、落城後に火事場整理が行われたと推定されます。堀越館跡は、14世紀～16世紀の遺物が出土しており、館の中心時期は14世紀後半から15世紀前半と考えられます。15世紀後半以降は館としては機能せず、16世紀以降は寺・墓地となっていたと考えられます。



堀（S D16）検出状況



廃棄土坑（S X34）遺物出土状況



廃棄土坑（S X34）から出土した陶磁器・茶臼

あがの 阿賀野市 **狐塚遺跡**  
 きつねづか  
 やよい 弥生時代中期後半の土坑墓群 —  
 ちゆうき 弥生時代中期後半 (今から約2,000年前)

所在地 阿賀野市大字熊居新田字狐塚742ほか  
 関連事業名 一般国道49号阿賀野バイパス  
 調査期間 H19.10.1～12.26  
 調査面積 2,067㎡



狐塚遺跡は、阿賀野川の右岸の\*沖積地上で標高約12mの自然堤防上に立地します。上層では12世紀～14世紀の中世の集落跡、下層からは、弥生時代中期後半の土坑墓が11基発見されたことから、墓地と考えています。

土坑墓は約10×10mの狭い範囲にまとまって発見されています。土坑墓は地面に穴を掘って直接遺体を埋葬しますが、遺体が木棺などに納められていた形跡は見つかっていません。穴の土を洗い、骨や玉などの石器も捜しましたが、全く見つかっていません。それでも土坑墓の可能性が高いと判断したのは、土器の特異な出土状況からです。

土器は10～20cm前後の小型のものが多く、一つの土坑墓に1～4個入っています。土器はほとんど壊れず立ったままのものや、その場でつぶれているものがあります。煮炊きに使ってスがついている甕を入れているものと、お墓に入れるために作った土器を入れているものがあります。

土器は、文様や器形に東北北部（秋田県・宇津ノ台式）、東西南部（福島県・川原町口式）、北陸（石川県・小松式）の影響を受けており、当時の活発な交流の様子をうかがえます。残念ながら、墓地を作った人たちが暮らした集落は、今回の調査範囲では発見されていません。（佐藤友子）



土坑墓 (SK) の分布状況



土坑墓 (SK6) の土器出土状況



土坑墓 (SK25) の土器出土状況



弥生時代中期後半の土器